第 15 講 【地誌編】東南アジア，南アジア

PART5 インドの工業，農業

Chapter 1　インドの工業

目標
インドの工業化について，独立から現在までの流れを理解しよう。
インドで ICT 産業が発達した理由を，カースト制との関連から考えよう。

1　インドの工業の発展

1. 独立以前

・インドでは，伝統的に**繊維工業**が盛ん。〔　　　　　〕の生産が多く，**綿織物**の生産が盛んだった。
　→綿工業が発達するに従い，〔　　　　　　　　〕は**綿花**や**綿製品**の積み出し港として発展。
・イギリスの植民地時代に，次第に**重工業**が発展。国内に**鉄鉱石**や**石炭**などが豊富に存在するため，**鉄鋼業**など〔　　　　　　　　〕**型工業**が栄えた。

2. 1950 ～ 80 年代

・ 1947 年に〔　　　　　　　　〕から独立。
・**市場経済**と**計画経済**の要素を併せ持つ**混合経済体制**のもと，〔　　　　　　　　〕**型**の工業化を推進。
　→国営企業と民族資本による**国内企業**が中心となり，発展を目指した。
　→外国からの輸入を**制限**して国内産業の育成を試みたものの，資本力の乏しさや技術革新の遅れなどの理由で，経済が**停滞**。
　→次第に**規制緩和**を開始。

3. 1990 年代以降

・**新経済政策**を打ち出し，経済の**自由化**に転換。
　→**外国企業**の進出が始まり，経済が急成長している。現在では BRICS の一員に数えられている。
・ 2000 年代に入ると〔　　　　　　〕**工業**が発達。〔　　　　〕の生産量は中国に次ぐ**世界第 2 位**（2020 年）。
・ **ICT 産業**の発展も目覚ましく，**GNI** は**世界第 5 位**である（2019 年）。

2　ICT産業の発達

・**アメリカ合衆国**の企業がコールセンターを置いたことに始まり，**ICT 企業**が多数進出。
　→はじめは〔　　　　　　　　　　　〕が中心であったが，次第に**ムンバイ**や**デリー**にも進出した。
・優秀なインド人技術者は企業本社がある〔　　　　　　　　　　　　　　　〕（アメリカ合衆国）などで学び，彼らがインドに帰国することで，国内の技術水準がさらに上昇。
・近年では，日本企業もアプリ開発の研究所をインドに開設するなどしている。

＜インドに外国の ICT 企業が進出する理由＞

1　**通信衛星・インターネット**の環境が整い，遠隔地とのコミュニケーションが可能。
2　インドとアメリカ合衆国の**時差**は**約 12 時間**であり，24 時間体制での稼動が可能。
3　準公用語が〔　　　　〕であり，言語の障壁が小さい。
4　インドは〔　　　　〕など理系教育に熱心で，技術者の素養を持つ人材が多い。
5　１人当たり GNI が低く，**低賃金**で技術者を雇用することができる。
6　ICT 技術者は新しい職業であり，〔　　　　　　　〕**制**に規定されないため，熱心に学び志望する人が多い。

ICT 産業で働く人々

まとめ

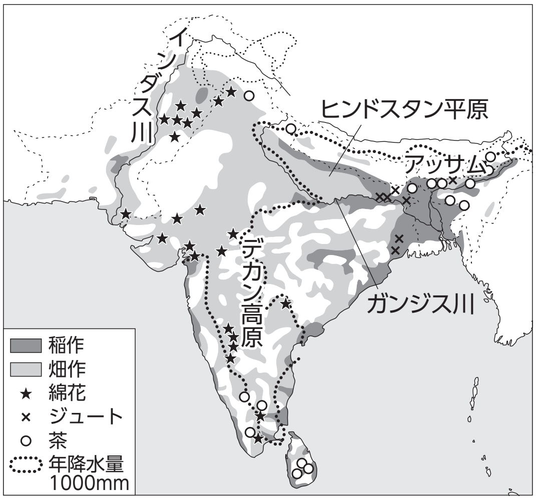
独立当時は，国内資本による輸入代替型工業が中心で経済が停滞。経済の自由化が進むと，外国企業の進出が始まり，工業が発展した。
ICT 技術者のような新しい職業はカースト制に規定されないため，熱心に学ぶものが多い。

Chapter 2　インドの農業

目標
インドの農業地域について，おおまかに理解しよう。
緑の革命がもたらした成果と課題を理解しよう。

1　インドの農業地域

・**年降水量 1,000mm** を超える地域で〔　　〕，下回る地域では〔　　　　〕を主に生産。
・地域ごとに，**綿花**や**茶**，**ジュート**などの〔　　　　　　　〕も生産されており，それぞれ世界有数の生産量である。
・**労働生産性**：第一次産業就業人口割合が**高い**が零細経営が多く，**労働生産性**が**低い**。
・**土地生産性**：**機械化**が進んでおらず，〔　　　　〕が整備されていない地域も多いため，**土地生産性**も**低い**。



南アジアの農業地域

<インドの農業地域>

地域	説明
ヒンドスタン平原	・インド最大の農業地域。 ・降水量がやや少ない上流域は，**集約的畑作農業地域**として〔　　　　〕を栽培。 ・降水量の多い中下流域は，**集約的**〔　　　　〕**農業地域**。
インド半島西岸	・一部が**熱帯モンスーン気候**であり，夏に特に**多雨**。豊かな降水を活かし，〔　　　　〕が行われている。
アッサム地方	・降水量が多く排水の良い丘陵部を中心に，〔　　〕の栽培が盛ん。
デカン高原	・肥沃な**レグール**に恵まれ，〔　　　　〕栽培が盛ん。
ガンジス川下流域	・三角州で〔　　　　　　　　〕の栽培が盛ん。 ・**コルカタ**ではジュート工業が発展。

2　食料増産への取り組み

・独立後の**人口急増**や**経済発展**に伴う食生活の変化を背景に，インドでは**食料増産**のための取り組みが行われてきた。

1. 緑の革命

・ 1960 年代より行われた，**自給作物増産と食料自給率の向上**を目指す農業改革。
・**高収量品種**や〔　　　　　　　　〕の導入, また〔　　　　〕設備の整備などが行われた。
→ 1970 年代には食料自給を達成。現在, **米･小麦**ともに**世界第 2 位**の生産量（2019 年）。
・ただし農業生産にかかる費用が高く，環境を整備できる裕福な農家と貧しい農家との間に**格差**が広がった。

2. 白い革命

・人口増加や経済成長による食生活の変化に伴い，**生乳**や〔　　　　　　〕の需要が拡大した。
→〔　　〕（水牛も多い）の飼育に必要な飼料の供給システムの改善，酪農技術の発展，乳製品の流通網整備などが行われた。
・**バター**は**世界第 1 位**（2018 年），**牛乳**は**世界第 2 位**（2019 年）の生産量。

搾乳の様子

3. ピンクの革命

・インドではもともと肉類の消費量が少なかったが，経済成長による食生活の変化により**肉類**の需要が増加。
・宗教的タブーの少ない〔　　　　〕の需要が高まり，**ブロイラー**飼育場が全国各地につくられた。

ファストフード店の商品

まとめ
年降水量 1,000mm を境に，湿潤地域で稲作，乾燥地域で畑作が行われる。
自給作物の増産には成功したが，貧富の差が拡大した。

第 15 講　PART 5　確認問題

1　綿花や綿製品の積み出し港として発展した，インドの都市はどこか。

①　コルカタ　　②　チェンナイ
③　デリー　　④　ムンバイ

2　インドの工業の発展について述べた以下の文のうち，**正しくないもの**はどれか。

①　植民地時代に国内の鉄鉱石や石炭などを利用して，鉄鋼業などが発達した。
②　1947 年にイギリスから独立すると，輸入代替型の工業化を推進した。
③　1990 年代以降，新経済政策を打ち出し，国による計画経済を進めた。
④　現在では自動車工業も発達し，2020 年の鉄鋼の生産量は世界第 2 位である。

3　インドではじめに ICT 産業がおこった都市はどこか。

①　アーメダバード　　②　ジャムシェドプル
③　ハイデラバード　　④　ベンガルール

4　インドに，アメリカ合衆国を中心とする先進国の ICT 企業が進出する理由として，**正しくないもの**はどれか。

①　インドとアメリカ合衆国の時差はほぼなく，やり取りが円滑であるため。
②　準公用語が英語であり，言語の障壁が小さいため。
③　インドは数学など理系教育に熱心で，技術者の素養を持つ人材が多いため。
④　ICT 技術者はカースト制による規定がなく，熱心に学び志望する人が多いため。

5 インドの農業について述べた以下の文のうち，**正しくないもの**はどれか。

① 年降水量1,000mmを超える地域で米，下回る地域で小麦を主に生産している。
② 地域ごとに綿花や茶，ジュートなどの作物が生産されていて，自家消費されている。
③ 農業就業人口割合は高いが零細経営が中心のため，労働生産性が低い。
④ 機械化や灌漑整備が遅れている地域が多いため，土地生産性が低い。

6 インドにおけるジュートの主産地はどこか。

① アッサム丘陵　② インド半島西岸
③ ガンジス川下流域　④ ヒンドスタン平原

7 インドの緑の革命について述べた以下の文のうち，**正しくないもの**はどれか。

① 1960年代より行われた，自給作物増産と食料自給率の向上を目指す農業改革をいう。
② 高収量品種や化学肥料の導入，灌漑設備の整備などが行われた。
③ 1970年代には食料自給を達成し，現在は米・小麦ともに世界第1位の生産量である。
④ 主に裕福な農民が緑の革命の恩恵を受け，貧富の差が広がることとなった。

8 ピンクの革命によって，インドで生産が増加したものはどれか。

① 牛肉　② 豚肉
③ 鶏肉　④ 羊肉

第 15 講　PART5　確認問題　解答

1 解答：④　インドでは伝統的に繊維産業が盛んであり，**ムンバイ**は綿花や綿製品の積み出し港として発展した。

2 解答：③　インドでは 1990 年代以降に，**新経済政策**を打ち出し，**経済の自由化**を進めた。それによりアメリカ合衆国や日本などから企業の進出が始まり，経済が急成長した。

3 解答：④　インドで ICT 産業が発達し始めた頃の中心都市は，**ベンガルール**である。

4 解答：①　インドとアメリカ合衆国の時差は**約 12 時間**であり，この時差を利用して 24 時間体制でのソフトウェア開発が可能となっている。

5 解答：②　綿花や茶，ジュートなどの作物は，換金を目的とする**商品作物**として栽培されている。

6 解答：③　農作物などを入れる袋の原料となるジュートの主産地は**ガンジス川下流域**であり，インドとバングラデシュが二大生産国となっている。

7 解答：③　現在インドの米・小麦の生産量は，ともに世界**第 2 位**。第 1 位は，ともに中国である（2019 年）。

8 解答：③　**ピンクの革命**は，インドで**鶏肉**の需要増加を受けて生産が増したことをいう。